社外取締役と語る会

当社内の横断的な組織であるステークホルダー・コミュニケーション委員会は、
「社外取締役と語る会」を開催しました。

小泉取締役を囲んで

出席者	T.Y.	東北支店 リモート
	S.T.	セメント事業本部管理部
	H.N.	上磯工場 リモート
	R.N.	中部北陸支店
	N.N.	カーボンニュートラル技術開発プロジェクトチーム リモート
	A.N.	海外事業本部管理部
司会	Y.S.	総務部

Q 社外取締役から見た当社の特徴についてお聞かせください。

A 140年を超える歴史をもつリーディングカンパニーとしての誇りを、従業員のお一人おひとりがもっていることを強く感じます。長い歴史の中には苦難の時もありましたが、それを乗り越えて今では海外展開も活発になり、これまでの苦労が花開く時がきたといえます。一方、グループ内を見ても全くの異業種はごくわずかで、セメント専業の色が濃いという印象です。

Q 当社は多様な働き方ができるようになりました。今後のキャリア形成において大切にするものはなにか、アドバイスをお聞かせください。

A 私が出産、育児をしていた頃には、今のようなサポートはなかったので、いい時代になったと感じています。仕事、育児、介護、家庭などをすべて自分で背負い込むと立ち行かなくなるので、あらゆるサポートを利用してとにかくキャリアを中断しないことが大切です。女性のビジネスパーソンを育てるには10人のサポートが必要だと言われるほど、自分だけがどんなに頑張っても難しい。ですから、家族や同僚をはじめ周囲の人には常に感謝の気持ちをもち続けることが大切です。今、世の中は女性活躍を推進する流れなので、これに乗ってみるべきではないでしょうか。

語る会を終えて

A.N.

通常、経営層の意向や考えが私たちに届くまでには様々な社内プロセスを経るため、直接ご本人からお聞きする機会はほとんどありません。今回の語る会での様々な意見交換を通じて、日常業務で自分たちに求められているものの解像度を上げることができ、モチベーションアップにつながる貴重な機会になりました。

江守取締役を囲んで

出席者	T.O.	中部北陸支店
	A.N.	カーボンニュートラル技術開発プロジェクトチーム リモート
	K.M.	ギソンセメント社 リモート
	T.I.	熊谷工場
	S.Y.	総務部
	A.S.	生産部
	Y.M.	経営企画部
司会	Y.S.	総務部

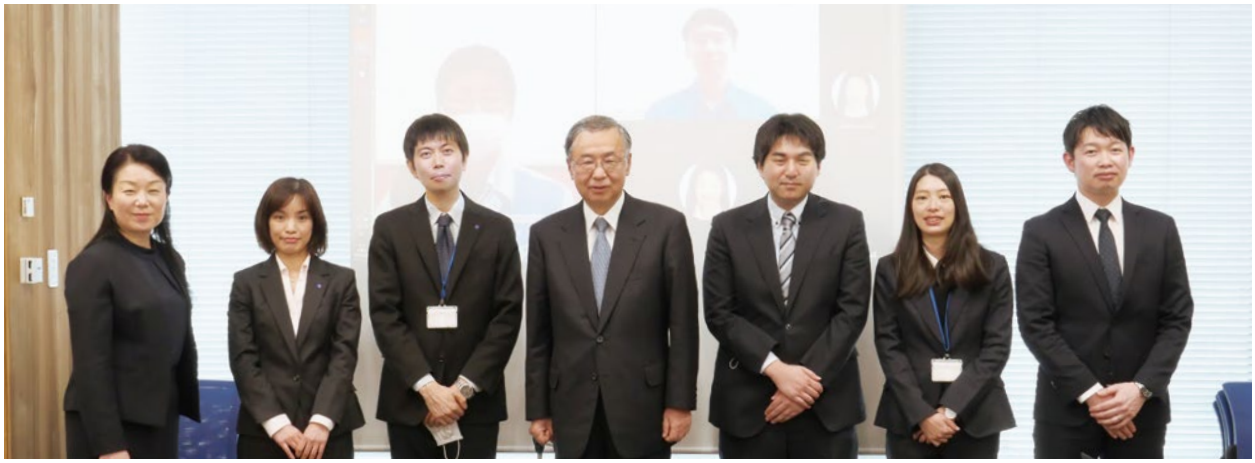
Q 当社は今、厳しい事業環境にありますが、私たちがモチベーションを保つには、何が必要でしょうか。

A 若手の皆さんは、「環太平洋で圧倒的なリーディングカンパニーになる」という、社長が語る展望にベクトルをあわせて、目の前の状況に一喜一憂することなく先を見つめて頑張ることが大切です。厳しい状況を打破するために「自分ができることは何か」「何をすべきか」など、自らのテーマを具体化して仕事に向き合ってほしいと思います。困難にぶつかった時には、積極的に上司・先輩と対話を重ね、人間性や人生観に触れること。そうすれば、何か建設的な答えが見つかることもあります。皆さんには、人生に揺るぎのない軸をもち、徳を備えた人になってほしいです。

Q 若手従業員が経験しておくべきこととは何でしょうか。

A 会社の運営、経営といった経験や知識を身につける努力をしてほしいと思います。さらに当社が今後、グローバル経営を加速するためには、海外で通用する語学力やローカルスタッフとのコミュニケーション能力も必要不可欠です。こうした求められる人材となるために、若い時から積極的に外に目を向けてほしいと思います。

振角取締役を囲んで



出席者	A.H.	中央研究所
	S.H.	総務部
	M.Y.	埼玉工場 リモート
	S.I.	タイヘイヨウセメントフィリピンズ社 リモート
	T.H.	中国支店
	M.O.	人事部
	K.S.	経理部
司会	Y.S.	総務部

Q 当社が圧倒的なリーディングカンパニーになるために、若手従業員に期待されることについてお聞かせください。

A エネルギー価格が高騰する一方で、セメントへの価格転嫁はなかなか進展せず2022年度業況は非常に厳しい結果となりました。しかし、困った時ほど抜本的に物事を変えるチャンスです。国内トップメーカーとして、セメントの価格政策について立案し、リードしていかなければなりません。新鮮で柔軟な感覚をもつ若手従業員の皆さんにはぜひ、「自分が社長だったら」という視点で、積極的にいろいろな提言をしてほしいと思っています。

Q 当社がもっと社会に対してアピールすべきことについてお聞かせください。

A セメントはインフラの基になる素材であり、必要な産業としてこれからもなくなることはないでしょう。多種多様な廃棄物を活用してセメントを製造する技術を生み出し、循環経済に貢献していることは、セメント産業そのものがサステナブルであることの証しです。一方で、カーボンニュートラルの実現に向けて積極的な取り組みを行っていることや、生産能力の40%近くを海外工場が占めているグローバル企業であることはあまり知られていません。そこは、もっと世の中に広くアピールすべきだと思います。

語る会を終えて

S.H.

当社独特と感じられている社風についてお聞きしました。当社は諸先輩方が築いてこられた140年という長い歴史が礎となっており、その歴史を次の世代へつないでいくことが自身の役割であると改めて認識できました。今回の語る会をきっかけに、これまで以上に業務に励みたいと思います。